

セレンニウム中毒か

熊大 医学部 水俣の奇病に警告

水俣市議会奇病対策委員会の代表は十六日熊大医学部を訪れ、近く海水浴シーズンを控えて海水と奇病の関係の究明方を依頼した。

いつぼう同医学部では、いま奇病の原因究明に工夫をあげているが、最近になって、現地で発病したネコの毛や内臓から相当量のセレンニウムが検出されたことから、にわかにはマンガン、ブラス、セレンニウム説が有力となった。セレンニウムは硫黄鉱、黄鉄鉱などの硫化物

中に少量含まれる希有元素の一つでマンガんに少量のセレンニウムが加わると強い毒性を発揮するといわれ研究陣を緊張させている。セレンニウム中毒については数年前アメリカで家畜が発病した例があるが世界でも珍しいといわれる。